



EU Risk Assessment – timing and outlook スクアセスメント – スケジュール

欧州リ

- 4月26日 環境影響に関するC&L会議題に三酸化アンチモンが載る
- 4月28日 COM415_HH_INDS5 (第二次RAR草案への産業界コメント) についてSW担当局との二者協議
- 5月1日 新しい環境影響暴露データ収集の締切期限
- 5月16日 第3版ヒトの健康RARの公表期限
- 5月18-19日 IAOIAバルセロナ会議
- 6月14-16日 TC NES II: 二者協議の結果いかんでは改正健康リスクアセスメント報告書の詳細審議?
- 9月12-15日 TC NES IIIでの環境影響評価資料についての最終討議機会 12月に延期される可能性が高い
- 11月6日 環境とヒトの健康に関する新報告書の締切期限
- 12月4-7日 TC NES IVでの健康と環境影響資料の最終討議機会
- 12月12-14日 PET2006コンファレンス (アムステルダム)
- 2007年第2四半期 EU関係当局による最終リスクアセスメント報告書の承認?
- 2007年4月 REACH 施行計画

Reaction of IAOIA/ATOS to newspaper articles regarding safety of antimony levels in PET-bottled waters

PETボトル飲料水のアンチモンの安全レベルに関する 新聞記事へのIAOIA/ATOSの対応

ここ数ヶ月複数のメディアが、PETボトル飲料水へのアンチモン溶出に関する疑問や誤解を招く記事を掲載している。これらの記事は独ハイデルベルグ大学のカナダ人科学者 Shotyk教授の研究成果に基づいていると思われる。

三酸化アンチモンは天然水のパッケージに使用されるPET樹脂を製造する際の主要触媒である。PETが天然水の容器として優れた材料であることは毎日何百万人もの消費者に安全に使用されている歴史が立証していることが強調されるべきである。

Shotyk教授はRoyal Society of Chemistry's Journal 1 に科学論文を発表した。Shotyk教授は例えば地下水や土壌中の非常に低濃度のアンチモンを研究した。分析機器を用いることで非常に低濃度を測定することができるが、PETボトル水への低濃度のアンチモン溶出は測定に影響を与える。その事実はPETボトル飲料水の安全性とは無関係であり、彼が測定したアンチモンの最高濃度の全てが世界保健機関 (WHO) の飲料水基準の60分の1以下である。PETボトル飲料水は安全である。このことは一般紙の記事が必ずしも真実ではないことを証明しているにすぎない。

詳細情報は、www.iaoia.org のPublicationを参照下さい。

Exposure and emissions data gathering from our downstream users ongoing 川下ユーザーの暴露・排出データ収集

ATOを使用する職場での環境排出・暴露に関するデータギャップが依然残っている。EUリスクアセスメントのためには数ヶ月以内にデータギャップが埋められなければならない。PETでの経験に基づけば、間違ったデータが使用されて実在しないリスクが証明されることを避けるためにはデータ収集を実施する価値は十分にある。一例として現行のRA報告書では、バックコート調合難燃剤製造工場、塗料顔料工場、セラミック顔料工場、エンブラコンパウンド工場などの労働者は理論上25-50mg/Sb/m³暴露されていると推定される。これはOEL (作業環境暴露限界値) の100倍に相当する。

ATOユーザーでデータ提供にご協力いただける方は、IAOIA事務局長(kvdy@iaoia.be)にご連絡下さい。

EU Risk Assessment –outcome of the first in-depth discussion of the second draft HH report EUリスクアセスメント – ヒトの健康報告書第二次草案についての最初の詳細審議の成果

3月9日、アロナ（イタリア）で開催された新規及び既存物質に関するEU技術委員会（TC NES）で三酸化アンチモンのリスクアセスメント（RA）に関するヒトの健康報告書が討議された。このRA報告書第二次草案には暴露シナリオ（職業暴露、消費者暴露及び環境経由暴露）、毒性動力学及び変異原性影響のみが記述されており、その他の急性及び慢性影響データはリスク評価を含めてすべてKemIによって再び削除された。

暴露シナリオは産業界やいくつかの加盟国からのコメントに基づいて、担当当局によって修正される必要がある。環境及びヒトの健康暴露に関しては産業界が新しいデータを収集しているので、欧州化学局（ECB）は新しいデータが入手された場合にのみTC NESでの討議が可能になるとの見解を示した。このことは暴露については6月あるいは恐らく9月も討議される可能性が低いことを意味している。

残された主要な問題は、三酸化アンチモンの潜在的な変異原性影響とメスラットで見られた発癌性影響の背後にあるメカニズムである。産業界は潜在的な変異原性と発癌性影響に関する4つのポジションペーパーを公表した（IAOIA事務局長に資料請求可能）。ポジションペーパーの概要は以下のとおり：

発癌性影響はメスラットにおいてのみ発生していること、遺伝毒性のin vivo試験が欠如していること、ヒトにとって関連性が疑わしいため既存のラット発癌性研究結果をヒトに適用することは不可能であることなどから、産業界は以下のとおり提案する：

- 1) 三酸化アンチモンの発癌性分類を現行どおりクラス3に据え置き、変異原性の分類は設けないこと。
- 2) ラットで観察された肺の閾値調整過負荷現象をWatt及びGroth研究の腫瘍メカニズムの説明に組み込むこと。
- 3) ヒトを慢性活性炎症リスクから保護するための基準値として現行のOEL（作業環境暴露限界値）を用いること。

担当当局との最後の二者協議は、2004年11月にさかのぼる。3月のTC NESでの討議は産業界と担当当局との良好な意思疎通と協力関係を構築するためには定期的に意見交換する必要があることを明確に示した。二者協議は4月28日にも計画されており、ここでの成果は6月のTC NES IIに報告される。

産業界はリスクアセスメントプロセスが転換点に来ていることを期待したい。産業界は、担当当局との建設的な協力関係と入手可能な全てのデータの詳細かつ純粋な科学的評価を期待している。

リスクアセスメントプロセスに関する詳細情報は、www.iaoia.org（ページトップのRisk Assessmentをクリック）で閲覧可能。

Updated List of IAOIA Members: 最新のIAOIAメンバーリスト IAOIAメンバーの最新リストは、www.iaoia.org で閲覧可能

これらの企業は、アンチモン製品市場を守るために、政府機関への適切な対応及び信頼出来るデータの開発や提供などの活動に奮闘しています。活動費用や人的貢献はこれらの企業が分担しています。貴社は、これらの企業をビジネス相手として選択することによって、我々の業界を支援することになります。貴社がアンチモン製品の生産者、流通業者、消費者であり、こうした取り組みに貢献する意志があるならば、IAOIA、日本鉱業協会、中国五鉱化工進出口商会または会員企業にコンタクトして頂きたい。

Organisation of IAOIA IAOIA 組織

役	職	氏名	e-mail アドレス	電話番号
議	長	Dave Sanders	david.sanders@chemtura.com	+ 1 765/497 6319
副	議 長	Geert Krekel	geert.krekel@campine.be	+ 32 14 601 549
経	理	Gilles Ozoux	gozoux@pcdlucette.com	+ 33(0)243012310
事	務 局 長	Karine Van de Velde	Karine.vandevelde@campine.be	+ 32 14 601 578
日本鉱業協会アンチモン環境安全対策協議会議長		町田博治	machida@nihonseiko.co.jp	+ 81 3 3235 0031
中国五鉱進出口商会		Huang Chongbiao	huangcb@minmetals.com	+ 861068495302